

四旬節第2主日の説教

金 大烈 神父 2009年3月8日(日)

《私たちは人を浮かばせるために生まれました。》

おはようございます。

少人数で十字架の道行きを歩むことはたまにありますが、共同体全体ですることはほとんどないと思いますので、今日は説教は短くして、その後十字架の道行きをしたいと思います。

水。水ってなんですか？ 水の性質と人間の性格は似ているところがあります。どういうところですか。水と人間の似ているところは何ですか。

水は正反対の二つの性質を持っています。水は物を沈める力を持っています。またそれとは反対に物を浮かべる性質があります。そうでしょうか？

人間はどの辺が似ているのでしょうか。皆様、奥さんの顔を思い浮かべて下さい。御主人の顔を思い浮かべて下さい。彼女はいつも褒める方でしょうか。彼はいつも叱る、責める方でしょうか。相手のプライドを高く立たせる方でしょうか。それとも「またつまらないことを言って…」と軽んじてしまう癖がある方でしょうか。

四旬節に入って、よ～く自分の罪について振り返って見るとき、自分の一番弱いところ、罪を犯しやすいところは何だろうと考えてみますと、大体私達は心の否定的な傾きがあります。

皆様、私達は人を浮かばせるために生まれました。浮かばせる。「あなたはすごいです。」「正しいです。」「あなたは愛されています。」と言うことができなかつたら、私達もそのようにしてもらえませんか。沈める力は人をよく殺します。浮かべる力は人をよく生かします。この二つの性格のなかで皆様は誰でも人を生かせる性格を選びたいと思われると思います。しかし、それは自由にできるはずはありません。結局自分のことを振り返ってみながら、私は何の目的を持って生きていくのかをいつも意識していなければならないんです。

まず、身内の人々(夫、妻、子供、親、兄弟)に対して考えてみましょう。

言葉によって傷つけたことはないのか？ たくさんあるでしょう。そしたらどうすればよいか考えて下さい。私達のこの舌。何 cm ですかこの舌は。5cm もないですよ。この 5cm にも満たない舌によって、この世の中を滅ぼしたり生かしたり、歴史の中で繰り返されてきましたね。私達の舌の目的は何より人を生かすためにつくられたことをよく覚えましょう。

ありがとうございました。